

9 教室における教員の存在感

はじめて教室に入り、生徒と向き合ったときのことを思い出してみましょう。生徒の期待や不安の混ざった視線が自分に向いていたはずです。そのようなときに、暗い表情を見せたのでは生徒が不安になります。一方で明るすぎても違和感を感じることと思います。

生徒にとっては、教員の一挙手一投足が人物評価につながっています。教員がどのような姿勢で生徒に接していくか、日々の積み重ねが教室とクラスの雰囲気をつくっていきます。

身近な手本となる

教員は、生徒にとって身近な大人の一人であり、大きな影響を与える存在でもあります。

教員が立場と責任にふさわしい態度で生徒と対応することは、生徒の規範意識を育んでいくことにつながります。自身の言葉遣いや行動が適切であるかを常に振り返る姿勢を持ち続けることが大切です。

また、身だしなみには、仕事に取り組む心構えが表れます。清潔感があり、T P Oに合った服装や髪形で生徒と接することが求められます。

さらに、主体的に学び続ける教員の姿は、生徒の重要なロールモデルとなるものです。常に手本として見られていることを意識しましょう。

個別支援が
必要な生徒
への対応を
考えよう

ポジティブな言葉を使おう！

禁止・否定の言葉に過度に反応する生徒や、反語的な意味理解が難しい生徒には、望ましい行動を具体的な短い言葉で伝えることが有効です。

「×××をしてはいけない」ではなく「○○○をしましょう」のように、常に「肯定的な表現」で伝えましょう。

アイコンタクトを上手に使おう！

言葉を掛けるだけではなく、「視線」「うなずき」「表情」「手振りサイン」等、言葉を使わない表現でも支持・承認を伝えていくことで、生徒との信頼関係（ラポール）は築いていけます。

自分の姿を振り返ろう

自分が生徒からどのように見られているのか、ビデオカメラやタブレット端末によって確認できます。カメラを設置する際、後方から撮影すると教員の特徴が、前方から生徒に向かい合う形で設置すると、教員の働き掛けに生徒がどのように応じているかが分かります。撮影後には、できれば複数で、教室での自分の姿や生徒との関係性を確認してみると、様々な発見があります。

→ 4章-9



振り返りのポイント

○ 言葉遣いや話し方のくせ

- ・声の強弱、抑揚などを付けて話しましょう。
- ・「えー」などの発声も極端に多いと気になります。
- ・授業では意識して丁寧な言葉遣いを心掛けましょう。
- ・ポイントや結論を述べる際には、簡潔にゆっくり話しましょう。

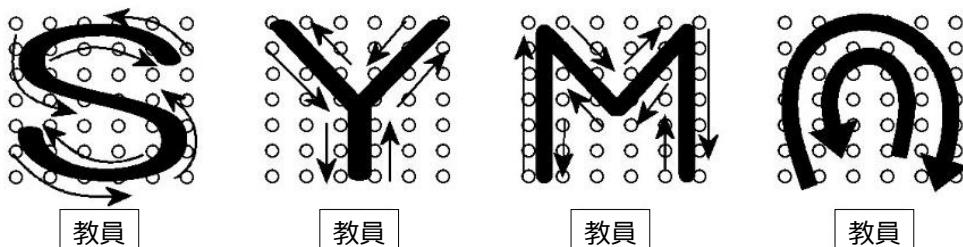
○ 体の動き

- ・表情豊かに、身振り手振りを取り入れて話してみましょう。
- ・黒板の前にずっと立っているのではなく、生徒のそばまで近寄り、生徒一人ひとりの学習状況を把握しましょう。

○ 視線の送り方

- ・教員が自分を見てくれているという思いは、生徒の授業意欲や教員との一体感を高めます。周囲への働きかけが苦手な、控えめな生徒にも、視線や表情による応援メッセージを送りましょう。
- ・黒板ばかり見ていたり、特定の生徒ばかり見たりすることがないようにしましょう。

〈視線の移動例〉



意識して視線を送るのが難しいならば

最初から意識して視線を送るのが難しければ、教壇に立って、右奥→左奥→左手前→右手前と、四隅を見るだけでも、教室全体が把握できます。

